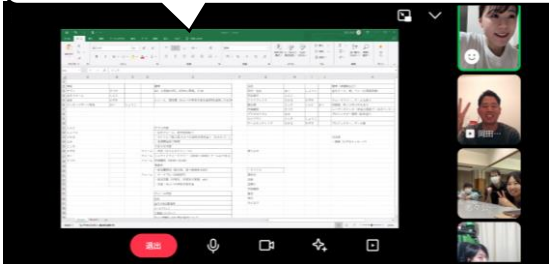


(様式3)

令和6年度 しまねの公民館次世代参画支援事業 実績報告書

市町村名	飯南町	公民館等の名称	志々公民館
事業の目的	地元出身の若者を公民館活動に巻き込み、地域課題である若者の流出、つながりの希薄化、楽しめるものがないなど若者に関する地域課題を解決するとともに、若者の地域活動参画、関係人口拡大、出身者がふるさとに帰ってくるきっかけの創出、継続したふるさととのつながり、Uターン促進を図る。		
事業の内容	○ターゲットとする世代 中学1年生～40歳（公民館子ども対象事業『わらべの学校』の卒業生）		
	○地域の状況やターゲットとした理由 志々公民館がある飯南町志々地区は、Iターンは多いがUターンは少なく、若者の流出・つながりの希薄化・楽しめるものがない など、若者に関する地域課題が多い中、若者の組織や活動がない。そこで、平成8年から続く志々公民館の子ども対象事業“わらべの学校”の卒業生が、中学生から40歳までの若者であることからターゲットとした。		
	○事業の内容（日時、場所、参加者数、具体的な活動） 志々公民館で長年続く子ども対象事業“わらべの学校”の卒業生を対象としたイベントを開催。イベントだけが目的ではなく、 <u>企画の段階から若者を巻き込み</u> 、地域の若者が中心となり、若者の主体性を活かした事業となった。		
事業の内容	■企画委員・企画会議について 企画委員には、わらべの学校卒業生の中から約10名が参画。委員を集める際には、できるだけ直接外向き声をかけ、事業の説明をすることでねらいを理解した上で活動できるよう心がけた。（ねらいを明確にすることで若者の主体性を引き出した） 企画会議は、 <u>地域内外問わず参画</u> できるよう <u>オンラインを活用</u> し開催した。オンラインを取り入れたことで、志々地区以外に住む人も自宅から参加でき、移動時間や交通費等の負担軽減にもつながった。また、関係人口として地域と関わるきっかけづくりになった。 また、ラベルワークを活用することで意見を出しやすい雰囲気づくりにつながった。		
	 画面共有しながら話し合いを進め、当日の内容や役割分担などをまとめていく 志々地区以外に住む若者も、オンラインだと参加がしやすい◎ 出雲市や松江市をはじめ、県外に住む企画委員も。 志々地区に住む若者を中心に、公民館へ集まれる人は集合して話し合い◎ □第1回企画会議：5月17日（金） □第2回企画会議：6月9日（日） □第3回企画会議：6月16日（日） □第4回企画会議：7月26日（金） いずれも夜に開催		
			

■イベント開催当日の様子



日時：令和6年8月12日（月）

場所：志々公民館 ホール

参加者数：22名

具体的な活動：ミニウォークラリー、大画面ゲーム大会、メッセージアルバム作成、食事会、プラネタリウム、天体観察会 等



準備や当日の司会進行なども、『わらべの学校卒業生会』のメンバーが行った。

ふるさとの資源を活かした天体観察で、ふるさとの良さを感じた。



成果と課題
今後の見通し

○期待する成果・効果

★企画委員に対して

- ・仕方なくやるではなく、自分たちがやりたい企画を楽しんでやる。
- ・地元への貢献を感じる。
- ・来年度以降も継続してやりたい思いを持つ。

★参加者に対して

- ・地元の若者同士がつながるきっかけになる。
- ・ふるさとと関わるきっかけになる。
- ・他年代の若者との交流の場となる。
- ・公民館事業や地域行事への参画のきっかけとなる。
- ・若者同士の継続的なつながりへと広がる。



★公民館として

- ・若者と公民館がつながりを持つことにより、今後の公民館事業での若者のスタッフ参画や、ふるさと教育での地域講師依頼など、若者と地域をつなぐ活動にも広がる。
- ・公民館が若者と関わりを持つことにより次世代の人材育成、担い手の確保、その他持続可能な地域づくりにつながる。

○計画書に記載された「期待する成果・効果」をふり返って見られた成果や課題、次年度以降の見通しなどをご記載ください。

・地元の中・高校生と、地域から出た若者たちがいっしょにゲームや食事を楽しみ、同年代だけでなく他年代の若者同士での交流ができた。

・この事業は本年が2年目の開催となるが、継続して開催することができた。引き続き、公民館を核とした若者の地域活動が継続できるよう支援していきたい。

・今回、参加者としてイベントに参加した人を企画委員に誘うなどして、公民館と関わりをもつ若者を増やしていきたい。

